

麻薬おとり捜査とある村長の死

親愛なる友人ジョニーの殺害と進まないコロナ禍での捜査
事件の概要

石井正子 立教大学



A drug war EJK and a barangay captain in Sarangani killed after refusing to sign as drug buy-bust ops witness

By Sarah De Leon - Jun 4, 2020



Source: Manila Today, June 4, 2020.

「ジョニー村長」 Hassan/ “Diony” Patricio Seromines

サランガニ州アラベル町カワス村・村長

- 1972年8月30日生まれ（享年47歳）
- ラモンマグサイサイ大学卒業（ジェネラルサントス市）
- 1998年～（1年間ほど）：フィリピン基督教団（UCCP）が支援する真の開発を求める連合（Alliance for Genuine Development）の開発ワーカー
- 2000年～：マグロ手釣り漁業協会のボランティアスタッフ。その後、マグロ手釣り漁業連合を設立し、漁業労働者などの支援にあたる
- UNHCRの委託を受けたNGOで無国籍インドネシア人の調査
- 小ビジネス
- 2010年 カワス村・村議会評議員
- 2019年7月、村長が町議会評議員に当選したことに伴い、村長に就任



ミンダナオ島 サランガニ州 アラベル町 カワス村

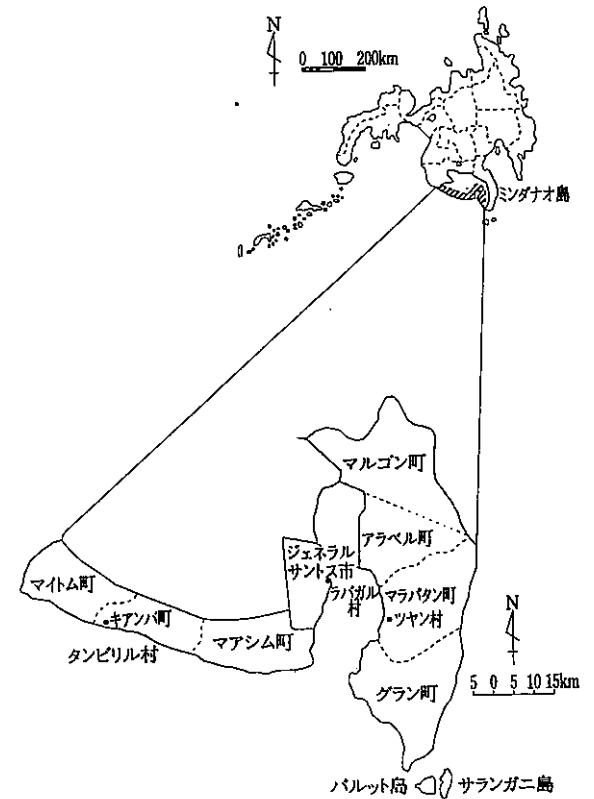
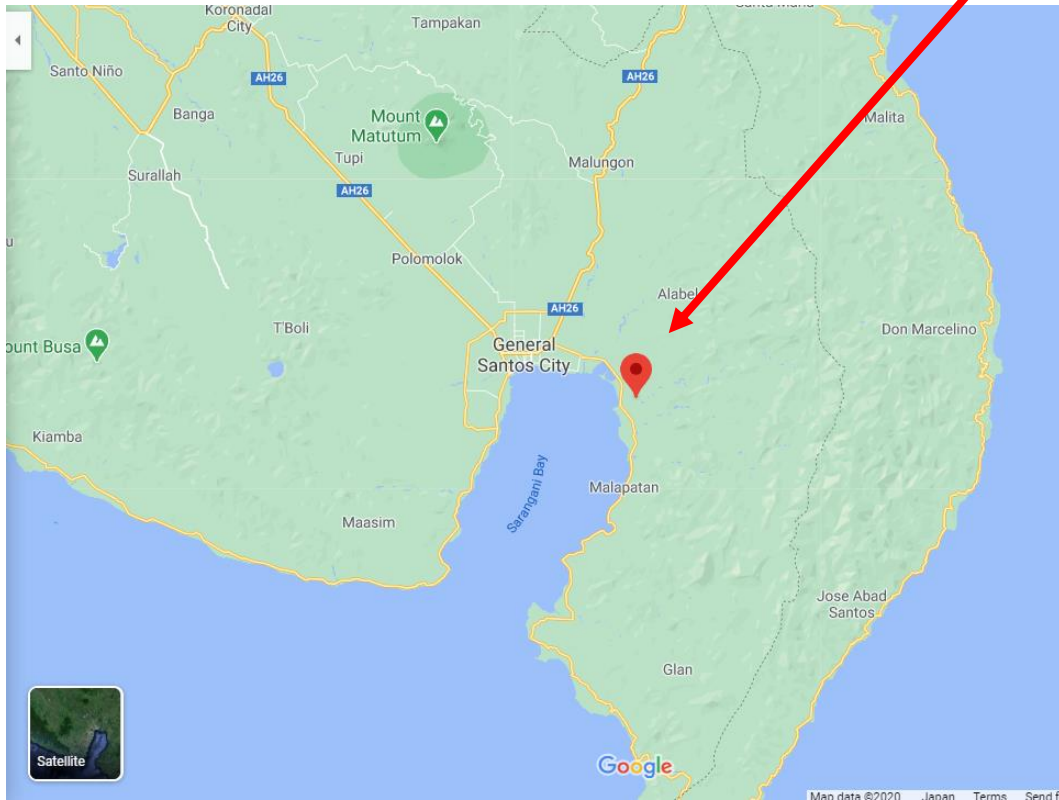


図2 サランガニ地方

事件の概要

黒字 人権委員会の決議書 2020年11月3付

赤字 遺族側に近い人権団体の調査

2020年5月29日

午後5時過ぎ

- 警察麻薬取締ユニットが村落警備員（*tanod*）のサルバドル・オログ氏に対する麻薬おとり捜査を行うために村にやってくる（元村長談）。
- （捜査状に目を通したジョニー村長は「逮捕するだけで、殺さないでくれ」と頼む）

午後7時ごろ

- 村落警備員オログ氏がいたCOVID19対策詰め所から6発の銃声が聞こえる（COVID詰め所スタッフ）。
- 銃声を聞いたCOVID詰め所スタッフが無線機で情報を伝える。ジョニー村長は無線機でオログ氏の居場所を教えてくれと呼びかけるが誰も反応しない（ジョニー村長の妹談）

- ジョニー村長はオログ氏が捜査員に発砲したために殺されたことを記した書類への署名を求められる。署名したかどうかは、確かめることはできない（元村長談）
- ジョニー村長、殺害されたオログ氏が逮捕を拒み、捜査員に45口径銃を向けたために銃殺されたと記す書類に署名を求められたが拒む。（殺害されたオログ氏が握っていたのは木の棒にすぎなかった）

午後7-8時ごろ

- アラベル町警察は、1週間前に地域警察麻薬取締ユニットからアラベル町での麻薬おとり捜査実施の連絡を受けていた。当日、麻薬取締ユニットから治安増強の応援を頼まれ、警察署長がカワス村に向かう。警察署長、ジョニー村長に会う（警察署長談）
- 警察署長、ジョニー村長と別れて現場に向かっている途中に4、5発の銃声を聞く（警察署長談）
- 銃声のほうへ駆けつけると男性が倒れていたのもので、パトカーに乗せて病院へ運ぶ（警察署長談）

事件後の不穏とともとれる動き

- 村役場での動き

- 事件翌日午前6時ごろ、村役場の村長執務室のドアが壊され、引き出しが搜索され、すべてが持ち去られる。
- 午前8時、ジョニー村長の埋葬前に、第一村会議評議員はすでに村長就任の宣誓を済ませる。

- アラベル町警察の動き

- ジョニー村長が署名を拒んだ書類を見せるよう求めているが、警察は提示を拒む。
- 容疑者を2人特定したとの目撃者の供述書（8月5日付）を作成し、妻に署名を求める。妻は拒否。→妻は警察の供述書を信じることができず、人権委員会に調査を求める→人権委員会は捜査を求める決議書を採択。

ジョナサン・ウランダイ牧師

- メソジスト教会 牧師
- 南コタバト州出身
- 2011年、国立ミンダナオ大学ジェネラルサントス校の法学部を卒業
- ミンダナオ民衆弁護士連盟（Union of Peoples' Lawyers in Mindanao : UPLM）において人権擁護活動のボランティアを行うなかで、ジョニー村長と知り合う